

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品

1. <秋田県 菓子>
8月は、お盆の帰省等で駅周辺は人が多く行き来していたが、物価高騰の影響により商品の動きが悪く、嗜好品である菓子の購入には結びついていない。
2. <茨城県 菓子>
原材料費など諸経費が10%以上値上げとなっていることから、昨年より販売価格を10%程度値上げしたが、価格転嫁が十分でなく収益状況は悪化している。販売数量は昨年より10%減少している。
3. <東京都 米菓>
売上高はコロナ禍前に戻った。米菓の原料となるもち米やくず米の需給のひっ迫が続き、外国産米（MA米）の需要が高い。また、国産原料米の契約は、大幅な高値となり、組合員の収益悪化が懸念される。
4. <静岡県 パン>
連日の猛暑によりパンの消費量が減少し、売上減となっている。秋に向かい新商品の販売やキャンペーンによる売上の確保と、販売価格の引き上げにより収益の確保を図っていく方針である。
5. <愛媛県 菓子>
お盆期間の人出は、台風や物価高による旅行控えで前年に比べ減少傾向にあったため、手土産菓子の売上も期待を下回った。全体として猛暑により外出すら控えているため、購買行動に繋がらないのが現状である。
6. <佐賀県 菓子>
暑い日が続く、気温も上がり、冷夏菓子等は需要が伸び好調であった。製造コストは依然として高値で推移している状況は変わらないので、販売価格への転嫁も進められている。

繊維工業

7. <秋田県 繊維>
8月の売上高は、組合員平均で前年同月比92%となっている。例年であれば忙しい時期だが受注量は落ち着いており、受注単価が低いままで推移しているため、依然として厳しい状況にある。
8. <東京都 織物>
地球温暖化により当組合の主力商品の販売は低迷傾向にあり、売上が減少している。また、材料費の上昇は、販売価格が上昇する一方、収益減少に繋がり、厳しい状況。
9. <岐阜県 メリヤス>
衣料分野の受注量の落ち込みが厳しい現状は変わらず、生産機の稼働率は5割程度である。毎年3月から10月頃までは、衣料生地受注はそれなりに安定していたが、今年は特に落ち込みがひどい。
10. <福井県 織物>
衣料、スポーツ、産業資材など分野を問わず在庫調整局面が続いており、先行き不透明感が増している。一部の特殊織物を除き、価格改定も一服感があり、人件費等のコストアップに追い付いていない。
11. <和歌山県 繊維>
8月の売上は前年同月より減少した。原材料や人件費などの増加による物価上昇で、消費者の購買意欲の低下が懸念される場所である。
12. <岡山県 繊維>
受注量の減少傾向が続き、取引環境にまで影響が及びつつある。経費上昇の流れの中で、価格転嫁が困難な状況が取引関係にまで及びかねない状況である。

木材・木製品

13. <岩手県 一般製材>
県内の新設住宅着工戸数は、前年同期と比較して25%減の433戸と大幅に減少し、この影響もあり製材品の荷動きが悪い状況が継続している。今後、非住宅分野での需要動向を注視していきたい。
14. <秋田県 一般製材>
8月は、新設住宅着工戸数の減少と製品販売単価の値下げにより、製品販売量が前年同月比82.5%、製品売上高が71.8%となった。なお、製品の販売不振から原木消費量を30%減少するなど調整している。
15. <富山県 一般製材>
県内の新設住宅着工戸数は、前年同月比▲15.0%と先月に続き大幅な下落となり、特に木材が使われる割合が大きい持家住宅については、32カ月連続で前年同月割れと減少し、不振が継続している。

16. <石川県 製材・木製品 >
8月度売上は昨年と比較すると50%程度と大きく下がっている。住宅価格が高騰し着工率が減少した。能登半島地震の復興のための仮設住宅の建設が続いているが、8月中には大方終了すると思われる。
17. <兵庫県 木材・木製品 >
民間建築需要は低迷している。仕事が少なく、原材料、人件費等のコストアップを売値に転嫁できず収益が圧迫されているので、今後の見通しについては非常に不安である。
18. <山口県 製材・木製品 >
組合員の平均売上額は、令和5年8月と比べ10%の減少。住宅需要の低迷等により製材品の売上げ減少が続き、それに伴い設備操業度の低下も続いている状況。

紙・紙加工品

19. <北海道 加工紙 >
繁忙期に入り需要は回復傾向である。副資材や包装資材は値上げになっているが、紙器・段ボールの値上げはいっこうに進んでいない。金融機関から短期プライムレート+0.15%の改定の案内があった。
20. <茨城県 段ボール >
大手も含め全体で昨年より5%から15%ほど生産数量が減少している。資材の高騰分を価格転嫁していく必要がある。
21. <東京都 紙製品 >
少子化の影響で紙製品の売上は落ちている。特に、ノート、学習帳は厳しい状況。また、猛暑の影響で、夏休みにもかかわらず、外出して文具小売店へ足を運ぶ子供が少なく、売上が減少している。
22. <岐阜県 紙加工品 >
物価高騰の影響で荷動きが想定以上に悪い。昨年同月比で売上が5%以上減少した組合員が多い。景況感は非常に悪く、厳しい経営状況となっている。8月も荷動きは悪く、売上回復の兆しはない。
23. <京都府 紙製容器 >
台風などの悪天候により、全体的に売上が悪化している。また、原材料値上げの動きもあり、各社が動向を気にしている。
24. <島根県 紙製容器 >
夏季休業日もあり操業度は低下。また販売先の状況も厳しいものがあり、期待出来るほどの増加は見込めなかった。

印刷

25. <愛知県 印刷 >
原材料やエネルギー価格の高騰、人件費の上昇により景況感は厳しい。さらに円安による物価高の影響も印刷需要の伸び悩みに影響しているようである。
26. <富山県 印刷 >
10月出荷分より足並み揃えて各種印刷用紙、インキ、版の値上げが各メーカーから発表され、値上げがいつまで続くのか全く不明である。印刷会社の立場は、益々弱いものとなっている。
27. <石川県 印刷 >
秋以降に各印刷資材メーカーからは5~10%の価格値上げの通達が出されているが、印刷業界では、以前より資材の値上げによる価格転嫁が進んでいない現状があり、全く逃げ場のない状態となっている。
28. <滋賀県 印刷 >
紙をはじめ資材の値上げに関して仕入れ業者から次々と通達があった。ここ数年の間に何度もの資材の値上がりがあり、後の会社の継続を含めて考えなければならない時期に来ているように感じる。
29. <長崎県 印刷 >
資材価格の値上がりが続いている一方で価格転嫁は進んでいない。適切な価格転嫁を促進するため、顧客に理解を求めるための文書を配布するなど、適正化に向けての取り組みを進めている。
30. <宮崎県 印刷・同関連 >
ここに至って、さらに原材料費が値上がりしてきた。最低賃金の上昇とインフレ等による影響かと思う。なかなか価格転嫁ができない状況で、今後の事業運営が厳しくなりそうだ。

化学・ゴム

31. <神奈川県 化学工業 >
販売価格上昇、収益好転であるが、原材料の値上げは継続している。半導体生産が拡大しているが、上流工程での受注は軟調で、回復にはもう少し時間がかかる見込み。
32. <岐阜県 プラスチック >
原材料価格は7月より上昇し、原材料の値上がり分の製品への転嫁だけでなく、労務費や物流2024年問題などによる製品の値上げに取り組んでいる。

33. <奈良県 プラスチック >
円安により原材料費やエネルギーコストが高騰し、人件費も上昇しているが、すべての価格上昇分の転嫁が認められないため、厳しい状況が続いている。優秀な人材を採用したくても賃金基準を引き上げられない。
34. <大阪府 セロトプラスチック >
売上高は前年比でほぼ同じであるが、原材料高や燃料高による製造コストのアップにより収益状況は悪化している。文具関係は少子化の影響で売上が年々減少している。
35. <岡山県 ゴム >
自動車メーカーの操業は戻りつつあるが、まだ前年並みまでは回復していない。引き続き労務費の価格転嫁をお客様へ依頼している。
36. <広島県 プラスチック >
当月は夏季連休や台風の影響で稼働日数が減少したため、操業度は低調であった。一般消費材の需要も動きが重く受注が低迷している。

窯業・土石製品

37. <埼玉県 窯業・土石製品 >
8月は盆休による工場稼働日数減のほか、台風の影響による豪雨により、出荷は対前年同月比55%と低迷している。工事物件は、多少は動きが見え始めたものの、出荷は地域偏在により一部地域に限定されている。
38. <山梨県 骨材・石工品等 >
台風・大雨の影響によって原石の採取ができず、製品需要も低下したことで、前年同月と比べ売上は▲10%、収益状況は▲5%となった。
39. <愛知県 生コンクリート >
東愛知地区において出荷量が激減、昨年比で70%と歯止めがかからない。売値も思ったように上昇せず、売上、収益状況、資金繰りが厳しい状況が続いている。
40. <岡山県 生コンクリート >
岡山県全体の8月累計出荷量は、対前年比85.66%と依然低水準で推移している。今年の8月は、お盆を含む第3週がほぼ全休となったことも出荷量の低減に繋がったと思われる。
41. <徳島県 生コンクリート >
8月の出荷量は昨年同月と比べて約49%減少。8月はお盆休みもあり営業日数が少ないうえコンクリート工事の減少で一段と冷え込んだ。コンクリートを使用した官工事の発注も少なく、非常に見通しが暗い。
42. <長崎県 生コンクリート >
前年同月比において売上高は減少、収益状況及び資金繰りは共に悪化。出荷数量の減少が止まらない。特に官公需の落ち込みが激しく、官公需に依存している地域では厳しい状況となっている。

鉄鋼・金属

43. <宮城県 機械金属 >
大手企業の設備投資意欲が鈍く、売上が減少傾向にある。雇用人員は賃上げが出来ている企業への流動化が始まっており、人員の定着及び確保が困難になってきている。
44. <東京都 金属製品 >
前月は25,000 t、今月は23,000 tとなり、売上減少。販売価格も中国半製品の安売りで暴落。在庫も悪天候の影響で増えず、世界的な鉄鋼需要減にて市況は悪化傾向にある。
45. <鳥取県 金属熱処理 >
盆連休の影響もあり前月比は落ち込んだが、前年同月比とは同程度である。自動車、建設機械を中心として全般にもものづくりが低迷している。電力、ガスなどのエネルギー費が製造コストを押し上げている。
46. <徳島県 鉄鋼 >
業況感に大きな変化はないものの、やや悪化傾向にある。現況においても、収益及び設備操業度ともに低調となっている。また、人員不足も重なり厳しい経営状況がまだ暫くは続きそうである。
47. <香川県 建設用金属 >
昨年から県内見積りは少ない状況が続いており、8月度も県内物件は少なく、商社・鋼材店からの依頼物件で工場稼働率を確保している状況が続いている。
48. <高知県 刃物・金物類 >
価格の改定（値上げ）の関係か、若干受注が少なくなってきたように感じられる。しかしながら受注残はまだ多く、早期の納品を生産者に促していき、売上を伸ばして行きたい。

一般機器

49. <新潟県 機械器具 >
建機関係の景況は最悪。前年の3割、良くても4割。従業員の離職防止のため、今春、給与のベースアップをしたところが多いが、更なる最低賃金の上昇により、さらに経営が苦しいものになっていく見込み。

50. <長野県 一般機械器具 >
一部事業所では受注が落ち込み雇用調整助成金の利用を検討、実施を行うところもある。人手不足解消は進まず、景気回復した場合に受注増に対応できるか不安を感じている事業所が多い。
51. <山梨県 業務用機械器具 >
前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲20%となった。物価高騰に加えて半導体関連・設備関連の生産が停滞しており、今年いっぱい厳しい状況が続く予測である。
52. <三重県 一般機器 >
引き合いは停滞したまま、短納期の需要が増えており、1、2カ月先の状況が予測しにくい。国内企業の設備投資意欲が少なく、見積り依頼などの数も少なくなっている。
53. <富山県 金属工作機械 >
受注状況は前年同月比89.46%で、安定してきてはいるが、近年全体的に減少が続いている。急激な落ち込みはないが、徐々に減少しており、底が見えない状況である。
54. <島根県 一般機械器具 >
売上については5～7月で約19%減少。8月についても同程度減少。農業機械、耕作機械ともに低迷しており、回復の兆しも見えない。低迷の要因としては、海外への輸出が減少していることが考えられる。

電気機器

55. <福島県 電子部品 >
自動車車載機器類や電子機器類の受注の戻りが先月の情報より不透明になっている。引き続き生産体制を維持しながら受注増加に対応していく。
56. <長野県 電子機械器具 >
全体的に需要の停滞が続いている。今後の見通しが不透明であり、依然として燃料や材料費に加え人件費の高騰は続くが、売上単価は変わらず、企業努力でどこまで持ちこたえられるか不安との声もある。
57. <山梨県 電気機械器具 >
取引先の夏休みによって受注量が減少、休み明けの動きも悪かった。少額の見積り案件でも価格競争が激化しており、受注まで至らないケースが増えている。
58. <静岡県 電気機械器具 >
8月の生産は、冷蔵庫は販売低迷によりマイナス継続、家庭用エアコンと業務用エアコンは猛暑の影響などにより2カ月連続してプラスとなった。
59. <三重県 電気機器 >
受発注の状況は一向に上向かず、前年度比80～90%程度で推移している。
60. <広島県 電気機械器具 >
売上は前月比▲2.0%、前年同月比▲2.0%となった。中国や東南アジアの電気関係の景況が悪化していることが要因。

輸送機器

61. <神奈川県 艦船製造・修理 >
造船の原材料の鉄鋼価格への影響や景気指標の一つでもある鉄スクラップの国内相場が8月も続落となった。「為替」と「海外安」の外部要因で一気に値下がりが加速した。
62. <愛知県 輸送機器 >
8月は盆休みに加え、台風10号の日本列島への接近に伴う休業が多い中、人件費の上昇、原材料価格の高騰、人手不足等が中小企業にとっては、経営状況の悪化が進む要因となっている。
63. <三重県 輸送機器 >
中国の景気回復には時間がかかりそうで、当面厳しい状況が続く見込みである。物量減少により、残業時間も減少しており、生活費への影響があるなど、消費への悪影響も見える。
64. <兵庫県 輸送用機械器 >
売上高は前年同月比9.4%の増収となった。前月比も好転している。部門別には機械関係18%、プラント部門は48%の減収となったが船舶関係32%、精密機械部門13%の増収により、減収部門をカバーできた。
65. <愛媛県 造船 >
元請け会社は当面の仕事を確保しており、組合員においても仕事量が増加している。仕事量は増えているがマンパワーが不足しているという組合員が多く、人材確保に力を入れている。
66. <長崎県 輸送機器 >
昨年度と比較して組合全体では、造船関係は好転傾向、造機関係(機械・ボイラー・タービン)は不変を維持している。先月との比較でも造船は少しずつだが好転傾向、造機関係も少しだが好転傾向にある。

その他の製造業

67. <千葉県 採石 >
石材出荷は3カ月連続なかったが、今月から出荷が始まり前年同時期を上回り、前年比では24%増の状況である。今後予定される東京湾の新海面処分場の護岸工事建設や横浜港の新本牧地区の護岸工事に期待したい。
68. <神奈川県 複合業種 >
半導体製造装置関連・自動車の需要が思うように伸びず、中国経済の先行き不透明感、ウクライナ・中東情勢などにより、設備投資・工作機械受注が伸び悩む。
69. <愛知県 工業用模型 >
自動車関係は動きが出てきたが、遅れもあり心配な要素も多い。年内は、仕事量もありそうな企業が多い。工作機関係は、波があり安定しない状況である。
70. <石川県 漆器 >
地震後の復旧がなかなか進んでいない中で、仮設住宅への入居で輪島に戻る職人が少しずつ増えている。また仮設工房の完成が50室まで増えたことで、今後、製造作業が少し回復していくことが見込まれる。
71. <奈良県 毛皮革 >
毛皮加工の単価については変わらないが、数量が減少傾向にある。業界の現状としては、後継者問題や設備の老朽化などの課題が出てきているため、対応を検討する必要がある。
72. <兵庫県 その他 >
遅れていた納期分も何とか納入でき、順調な生産に落ち着いてきた企業が多い。相変わらず人手不足で追われているところもあるが目途がたってきた。新たなサンプル作製など新しい仕事も増えてきた企業もある。

《非製造業》

卸売業

73. <宮城県 繊維製品 >
食料品の値上げを受けた買い控えを感じる。経費も様々なものが値上がりの影響を受け、収益確保が難しい。今後の賃金、金利等の上昇へ対応をしなければならず頭が痛い。
74. <山形県 その他の各種商品 >
食料品関連は、外食関連で休日の関連やお盆休みの長期化により出荷が増加。商品単価の上昇が寄与し、収益も改善がみられているが、最低賃金の改定は今後の人件費の上昇を伴い収益を圧迫させる要因となる。
75. <兵庫県 その他の卸売 >
値上げ圧力は一段落する一方で、一部に金利引き上げの動きがあり対応に苦慮している。為替も安定感を欠き、収支が読みにくい。
76. <広島県 総合 >
8月は稼働日数も少なく、猛暑の影響や販売数量の低下により売上は減少傾向が見られた。食品関係は米の品薄・品切状態により仕入業者は仕入の確保に奔走させられる事態となった。
77. <山口県 各種商品 >
多少収益が好転した事業所がある反面、依然として悪化している事業所も少なくない。対策を講じたいが、人件費を抑えることくらいしか思いつかない模様である。
78. <高知県 各種商品 >
お盆時期の地震臨時情報及び月末の台風の影響により、外食、観光の業界は全体的に大きくマイナスになった。原材料の値上げ、油や電気代値上げがあり、十分に販売価格に転嫁出来ず、利益が圧迫されている。

小売業

79. <岩手県 各種商品 >
8月は全業種とも前年超えとなった。要因としては、お盆休暇の長期化で帰省客が増えたことや下旬の涼しい気候によるところ、前年の買い控え期の反動ということが考えられる。
80. <宮城県 花卉 >
お盆という生花店の1年で最大の繁忙期であったが、仕入額や販売価格等で調整をしっかりと行った店舗はかなり利益が出たと話していた。
81. <福島県 共同店舗 >
前月比、前年比とも売上、来店客数共に好調。夏休み、お盆休みで帰省客が増え、異常気象の影響を受けてはいたが実績が伸ばせた。次月は、創業祭でイベントを開催。売上・来店客数増に貢献していきたい。
82. <三重県 電器 >
記録的な猛暑が続き、エアコンをはじめとする季節商品の販売は、県の省エネキャンペーンの追い風もあり販売実績を伸ばす事が出来た店舗も多い。また、消費者の価格高騰に対する不満の声が少なくなっている。
83. <島根県 各種商品 >
前年比、売上高112%、来店客数112.6%と飲食店顧客の需要増に加え一般顧客の来店も増え、売上状況は好調。6、7月は若干不調を感じた飲食店の需要も、観光客が多く今月においては増えているように思う。
84. <長崎県 石油販売 >
酷暑の影響や台風による駆け込み需要によって、需要面では前年実績を上回るSSが大半であった。久しぶりの好実績に胸をなでおろす販売業者は多く、天候による環境が需要を後押しする8月商戦となった。

商店街

85. <青森県 商店街 >
青森ねぶた祭りが開催され、商店街の聞き取りでは人出、売上ともに昨年を上回っているとのことだった。25日には当組合主催の歩行者天国イベントが開催され、家族連れでの来街が目立ち賑わった。
86. <秋田県 商店街 >
8月の売上高は、観光客や帰省客等の増加に加え、物価上昇も起因し、各業種にわたり前年同月比で微増している。
87. <群馬県 商店街 >
地域まつりや花火大会が開催され、猛暑や雨の影響があったものの、多くの人出があり、大変な賑わいをみせた。

88. <新潟県 商店街 >
長岡まつり花火大会は例年より多くの観光客が訪れ、飲食、宿泊業では大いに売上に貢献した。その後、歩行者天国イベントを開催したが、今年一番の人出となり大いに盛り上がり、出店者の売上も大きかった。
89. <富山県 商店街 >
お盆期間中や土日の夏休み向けイベント開催時には商店街の人通りは多く、特に飲食店は賑わっていた。
90. <奈良県 商店街 >
夏休みに入り、商店街への人の流れが増えている。また、駅周辺に観光バスで観光客が訪れ、土産物店などは来店者が多くなっている。飲食店関係は、多くの人で賑わい活気が出ている。

サービス業

91. <岩手県 旅館 >
繁忙期のお盆時期に一部地域にて台風による被害等が発生。交通機関等のキャンセル等も発生。さらに月末にも線状降水帯による大雨の影響等もあり、8月は天候に左右される期間であった。
92. <栃木県 理容 >
各店舗での売上高は、ここ最近大きな変動は見られないものの、資材や光熱費の価格高騰により痛手を受けている店舗も増え、資金繰りが苦しい現状である。
93. <静岡県 宿泊 >
組合員旅館の宿泊人員は、前年比100%と同数になった。8月中旬以降は、南海トラフ地震臨時情報の発表及び台風10号接近に伴うキャンセルが多数発生し、大きな打撃となった。
94. <岐阜県 自動車車体整備 >
工賃の値上げが認められ、販売価格の上昇が半数以上の組合員に見受けられている。消費者物価指数の上昇率は、工賃単価の交渉において反映しやすい指標となっている。
95. <滋賀県 旅館・ホテル >
通常通りの夏の繁忙期を迎えている。大津、草津あたりには、京都、大阪で満室になったインバウンドの需要が流れ込んでいる。今年は災害の多い年でもあり、これからのシーズンは台風の被害に警戒が必要。
96. <沖縄県 ビルメンテナンス >
最低賃金上昇に伴う差額分について、発注者側に年度途中の契約改定を求めても受け入れられず、価格転嫁出来ずに事業者側の負担増に繋がる状況が続いている。

建設業

97. <東京都 鉄骨・鉄筋工事 >
建設業法などの改正に伴い、「適正な請負代金」、「適正な工期設定」、「適切な価格転嫁」での取引を業界全体に浸透させるよう努めている。
98. <山梨県 管工事 >
前年同月と比べ売上は11%増加・収益状況は14%好転した。全国的に管工事の受注高が民間・官公庁ともに好調であり、設備関連工事の需要が高まっていることから、受注体制の強化を進めていきたい。
99. <和歌山県 職別工事 >
和歌山県内の建設現状は先月とさほど変わらず、住宅関連の受注が減少しており、見積りも減少しているところが多い。9月の材料費の値上げが心配である。
100. <福岡県 総合工事 >
資材価格の高止まりや労働者の不足が続いており、建設業界の経営環境は依然厳しい状況にある。また、4月から建設業の時間外労働の上限規制が5年間の猶予期間を経て施行され、この対応も必要となっている。
101. <大分県 総合建設 >
管内の公共工事は、前年度に比べ▲2%減少している。建設業では人手不足が大きな問題であり、担い手の確保・育成が課題となっている。また、「働き方改革」や「生産性向上」の取り組みが課題となっている。
102. <鹿児島県 管工事 >
県内新設住宅着工戸数が発表され、前年同月比で594戸、44.7%減少と大幅に下回った。資材の高騰、人件費の上昇、働き方改革への対応に伴う経費の増加など、収益が悪化する厳しい状況が続いている。

運輸業

103. <青森県 一般旅客自動車 >
売上の減少が止まらない。タクシーの売上減少の原因は少子高齢化によるものが多く、地方公共交通のあり方が問われているが、相談先がなく全ての責任が事業者になっているのではないかと懸念されている。
104. <滋賀県 貨物運送 >
受注高は盆休の影響にて例年通り減少。営業環境は変化なく同じ状況が続いている。燃料価格は値下りに転じたが依然として高い状況。運転手の移動が目立ってきており、対処策等で不安感が大きい。

105. < 和歌山県 道路貨物 >
相変わらず地域内の荷動きが少ないが、猛暑による飲料水関連商品の荷動きが見られる。また、燃料の軽油が高値で安定しており収益率の低下に拍車をかけている。
106. < 山口県 一般貨物自動車 >
荷物運送量・倉庫保管量共に増加、小ロットから大型輸送案件まで、依頼内容が多様化している。引き続き物価高騰に関する値上げ交渉を継続しているが、概ね了承いただいている。人員は安定している。
107. < 徳島県 貨物 >
お盆休みや台風10号の影響で、売上減となった。台風10号では、事前の出荷停止や計画運休をした事業者も多く聞かれ、荷主側の理解も進み、安全面への対策がしっかり行われている。
108. < 熊本県 一般貨物自動車 >
8月は、食品は良く動いたが他は普段通りの荷動きであった。ドライバーの盆休みでも特に混乱することはなかった。関東の支店では2024年問題の影響により、配送できず倉庫が荷物であふれる状況が発生した。

その他の非製造業

109. < 千葉県 輸出入 >
8月に入りインバウンド客が空港内にあふれてきた。当然、日本的な土産品の購買数は格段に増加して、大抵の物販店は賑わいを見せている。売上も前年比・前月比とも、それぞれ110%以上の伸びである。
110. < 新潟県 砂利採取 >
生コン向け骨材の出荷は好調だが、その他の骨材は伸びていない。価格転嫁は進んできているが、業界では更なる値上げを求め、来年度の価格を検討している。
111. < 奈良県 質屋 >
為替の影響を受けて金価格も乱高下している。ジュエリーや高級時計、ブランドバッグの相場は、インバウンドの旺盛な消費を受けて堅調である。
112. < 岡山県 信用組合 >
8月も引き続きその他の融資により柔軟な資金繰り支援対応をおこなった。原材料高騰の影響は続いており資金繰り支援を中心とした事業者支援を図っていく。
113. < 広島県 不動産 >
不動産市場については、マンション販売が鈍化している。新築マンションは建築資材の高騰や人手不足によりコストが上昇し、販売価格が高騰している。戸建住宅については供給宅地不足で取引件数が減少傾向にある。
114. < 福岡県 砂・砂利・玉石採取 >
各地区の需要は減少しており、特に官公需の減少が続いている。